2012年9月24日

各　位

会社名　イ　オ　ン　株　式　会　社
代表者名　取締役兼代表執行役社長　岡田 元也
（コード番号８２６７　東証第一部）
問合せ先　執行役社長室責任者　平林 秀博
（電話番号　０４３－２１２－６０４２）

当社子会社（コックス、マックスバリュ西日本）の業績予想の修正について

最近の業績の動向等を踏まえ、当社連結子会社である株式会社コックス（ＪＡＳＤＡＱ：コード９８７６）とマックスバリュ西日本株式会社（大証２部：コード８２８７）が、2012年4月5日に公表した2013年2月期第2四半期累計期間（2012年2月21日～8月20日）の業績予想を添付資料（コックスは「業績予想の修正に関するお知らせ」、マックスバリュ西日本は「業績予想の修正及び特別損失の計上に関するお知らせ」）のとおりそれぞれ修正することとなりましたのでお知らせします。

尚、本件による当社の連結業績予想の変更はありません。

以上

２０１２年9月２４日

各　　位

会 社 名　株式会社 コ ッ ク ス
代表者名　代表取締役社長　　吉竹　英典
（JASDAQ・コード番号：９８７６）
問合せ先　取締役経営管理部長　速水　英樹
（ＴＥＬ：０３－５８２１－６０７０）

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 25 年２月期（平成 24 年２月 21 日～平成 25 年２月 28 日）の第２四半期（累計）業績予想について、平成 24 年４月５日に発表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

１．平成 25 年２月期第２四半期（累計）（平成 24 年２月 21 日～平成 24 年８月 20 日）連結業績予想の修正

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	１株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円　銭
前回発表予想　（A）	11,740	△110	△40	△230	△8.35
今回修正予想　（B）	11,651	△136	△23	△154	△5.60
増　減　額（B－A）	△89	△26	+17	+76	―
増　減　率　（%）	△0.8	―	―	―	―
（ご参考） 前期第２四半期実績	12,774	△771	△666	△1,166	△42.35

２．平成 25 年２月期第２四半期（累計）（平成 24 年２月 21 日～平成 24 年８月 20 日）個別業績予想の修正

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	１株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円　銭
前回発表予想　（A）	11,640	△80	△10	△200	△7.26
今回修正予想　（B）	11,603	△61	49	△81	△2.95
増　減　額（B－A）	△37	+19	+59	+119	―
増　減　率　（%）	△0.3	―	―	―	―
（ご参考）前期実績 前期第２四半期実績	12,748	△748	△647	△1,145	△41.57

３．連結業績予想の修正理由

当第２四半期累計業績は、売上高、営業利益については従来予想に対して未達ながらも、経常利益・四半期純利益は従来予想を超過達成する見込みとなりました。国内単体業績は、売上高が未達ながらも、営業利益・経常利益・四半期純利益は従来予想を上回る見込みです。一方、中国子会社の売上高・営業利益が予想より下回る見込みです。

国内単体の第２四半期累計期間における既存店ベースの売上高前年比は 101.4％となりました。また、同期間における全店ベースの売上高前年比は 91.0％となりましたが、８月度単月では全店ベースの月間売上高前年比が 100.2％と、2009 年２月度以来 42 ヶ月ぶりに前年を上回ることができました。

業態別では、「ｉｋｋａ」と「CURRENT」が業績を牽引しました。主力業態の「ｉｋｋａ」はメンズアパレルが好調に推移し、既存店売上高前年比は 107.1％となりました。「CURRENT」は幅広い商品ラインを出店立地別に組み合わせて販売することで、主力の「ｉｋｋａ」を上回る利益改善となりました。

一方中国については、３月の気温急上昇から夏物の立ち上がりと展開に遅れが生じ、予想売上を下回る結果となりました。

また特別損失については、昨年の減損損失、閉店損失等の実績から保守的に予想していましたが、国内業績が堅調に推移したことにより、当初予想に比べて少額となる見込みです。

当第２四半期累計の業績については、昨年の不採算事業からの撤退による売上高減少が大きな影響を与えましたが、第３四半期以降は、新店、既存店の売上高増加によって全店ベースで増収に転じることを予定しております。売上高増加による販管費率の改善、商品回転率向上による売上総利益率の改善を実現することで収益率を高め、当初計画の達成を目指してまいります。

また中国についても、独自のシーズン対応マーチャンダイジングの実現と店舗での接客強化を図り、計画達成を目指してまいります。

なお、通期の業績見通しにつきましては、現時点において変更はありません。

４．個別業績予想の修正理由

第２四半期における個別の修正についても連結と同様の理由です。

（注）上記の業績予想は、本資料発表日現在において、入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

以上

平成 24 年９月 24 日

各　　位

会　社　名　　マックスバリュ西日本株式会社
代 表 者 名　　代表取締役社長　　岩本　隆雄
（コード番号：８２８７　大証第二部）
問 合 せ 先　　常務取締役管理担当　井戸　智文
（電話：０８２－５３５－８５００）

平成 25 年２月期第２四半期累計期間の業績予想の修正及び特別損失計上に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 24 年４月５日に公表した平成 25 年２月期第２四半期累計期間（平成 24 年２月 21 日～平成 24 年８月 20 日）の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

また、同累計期間において、下記のとおり特別損失を計上いたしましたので、お知らせいたします。

記

１．平成 25 年２月期　第２四半期(累計)業績予想の修正（平成 24 年 2 月 21 日～平成 24 年 8 月 20 日）

	営業収益	営業利益	経常利益	四半期純利益	１株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	127,900	3,100	3,200	1,500	57.36
今回修正予想（B）	127,405	2,403	2,516	971	37.14
増減額（B－A）	△495	△697	△684	△529	△20.22
増減率（％）	△0.4	△22.5	△21.4	△35.3	－
(ご参考)前期第２四半期実績（平成 24 年２月期第２四半期）	124,998	2,901	3,021	567	21.69

２．修正の理由

当第２四半期累計期間においては、一部景気持ち直しの動きが見られるものの、個人消費全体では依然として低迷し、引き続き厳しい経営環境が続いております。このような環境の中、営業収益につきましては新規出店や既存店舗の活性化、また開店時間について一部店舗を除き７時開店に変更するといった営業機会の拡大等に取り組みましたが、異業種との競争環境激化、また夏場にかけての天候不順の影響等により、既存店舗売上高が前年

同四半期比 98.5%と厳しい結果となり、予想を下回る見込みとなりました。

営業利益、経常利益につきましては、経費面において店舗基本照明のＬＥＤ化を推進するなど構造的な経費削減に取り組みましたが、営業機会の拡大による人件費の増加及び販促企画拡大等による販売促進費の増加によって、販売費及び一般管理費の増加が営業総利益の伸びを上回ったため、当初予想を下回る見込みとなりました。

また、四半期純利益につきましては、「固定資産の減損に係る会計基準」の適用に伴う減損損失５億８百万円を特別損失として計上したこと等により、予想を下回る見込みとなりました。

３．特別損失の計上及びその内容

平成 25 年２月期第２四半期累計期間においては、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、店舗に係る減損損失として５億８百万円を計上いたしました。

その他、固定資産除売却損など１億 26 百万円の計上により、平成 25 年２月期第２四半期累計期間の特別損失は６億 35 百万円となる見込みであります。

（単位：百万円）

	合計
減損損失	508
固定資産除売却損等	126
特別損失合計	635

※上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は今後様々な要因によって業績予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以上